

令和2年度 自己評価のまとめ（年間）

「教育目標」についての取り組みと反省

考えよう

—自ら学び、考える子—

- たしかめテストの効果は高いと思う。よりよい方法を検討したい。
- ハンドサインなどに取り組んだが、学級担任としては、まだ不十分に感じる。
〈学校努力点〉 だれもが「できた」「分かった」と実感できる授業づくり
～広がりのある「共有化」につなげるために～
- たくさんの人たちに支えてもらい、自分なりに授業を工夫して指導できた。
- 2か月遅れの中、一つ一つの授業で十分に検討ができていなかったと感じた。

力をあわせたよう

—明るく思いやりのある子—

- I N Gキャンペーンに全校で取り組めたことがよかった。
- 「返事」が一部の児童が中心となっているので、全体でしっかりできるようにしたい。
- 姿勢を、声を掛けて意識させないとすぐに崩れてしまう。
- 自分のクラスには、工夫することができず、一人一人活躍できなかった。

体をきたえよう

—心身共にたくましい子—

- けがをする児童は、昨年度より減少している。
- マスクの着用や手洗い・うがいなど毎日意識して徹底できている。
- 廊下や階段の歩行はもう少し子どもへの意識付けが必要だと思う。
- 6、7月の体育の授業数が十分に確保できなかったため、1年間を通して、取り戻すのに苦労した。



今後の改善に向けて

- ◇ 今後も学習マナーやルールにより一層の定着を図る。また、自分の考えをハンドサインも活用して表し、話し合いが深まるようにする。今後も漢字・計算たしかめテストする。自分の思いや考えの表現につながるようにする。学習用タブレット、ICT機器を活用し、より分かる授業を目指す。努力点の見直しを図る。
- ◇ 基本的な生活習慣を定着させ、徹底を図る。「星ヶ丘子ども宣言」を基に児童会や委員会活動、各学年・学級での活動を工夫していく。今後も道徳教育やI N Gキャンペーン等を通して、みんなでよい学校を作っていこうとする意識を高める。
- ◇ 「学校ルールの見える化」を図る。専門家に様々な技能を指導していただくとともに、継続して活動に取り組める工夫する。今年度、壁画前に手洗い場を設けた。今後も可能な範囲でコロナ対策等工夫していく。

学校のあり方・その他についての取り組みと反省

保護者・地域との連携

- コロナ感染対策のため、行事が削減されたことは残念であったが、体育祭の実施の仕方で、保護者に理解いただけたのはよかった
- 今年度はコロナの影響でなかなか学校行事ができず、連絡帳でのやりとりになっていたため、十分に知らせることができなかった。
- 学校生活の様子を授業参観やその他の行事で知らせることは、あまりできていないので、その分写真などを学年だよりで増やしたり、懇談会の時の廊下に貼ったりしてもよかった。

楽しい学校

- 今年度は、制限が多く、校外学習や出前授業を行うのが難しかったが、地域の公園に出掛けることができてよかった。



今後の改善に向けて

- ◇ 努力点の取り組みや普段の学習活動を授業参観や学年だよりで保護者に伝える。コロナ禍での学校行事や授業参観の実施方法を工夫し、学校の教育活動がより保護者や地域に伝わるようにする。今年度「学校だより」「学年だより」の紙面を刷新し、教育活動がより分かりやすくなるよう工夫した。今後も継続して紙面を工夫していく。
- ◇ 次年度も「大好き！星ヶ丘」と言える児童が育つよう、取り組みを工夫していく。